

第3回はにしな寮在り方検討委員会会議議事録【概要】

日 時 令和5年10月13日（金） 14:00～15:45
場 所 長野市資源再生センター事務所棟2階 大会議室
出席者 委員（総数13人中12人出席）
事務局（7人、はにしな寮所長含む。）

1 開会

- ・樋口委員欠席の連絡

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 長野広域連合養護老人ホームはにしな寮の課題に対する関係市町村からの意見等について

- ・事務局より資料1、参考資料1、参考資料2に基づき説明
- ・質疑、答弁なし

(2) 長野広域圏内の養護老人ホーム運営事業者（社会福祉法人）の運営状況等について

- ・事務局より資料2、参考資料3、参考資料4に基づき説明

【質疑・答弁】

○委員長

養護松寿荘の収支も赤字になっているが、特養と併せるとどうか。

○事務局

併せても赤字である。

○委員

挙げられる諸問題について、解決策を考えても何かしら規制があり、案が浮かんでこない。人材確保において民間から派遣で確保する等、運営の合理化についてであれば委員会で提言できると考える。

○委員

高齢の職員について、若い人材がいないから残っているのか、それとも本人の希望があるから残っているのか。

○事務局長

毎年雇用の希望調査という形で意向確認している。65歳以上の職員もいるが、継続雇用を希望している。施設としても経験があり、体力的に問題なければ就労の継続をお願いしている。

○委員

赤字を解消する手立てとして、人件費を抑えることが考えられるが、高齢の職員が

残ったまま新たな職員を採用すれば人件費は単純に増える。または、養護だけでなく他の事業を取り入れていけば収入は多くなるが、施設も大きくし、職員も増やさないといけない。もしくは、入所者の定員を増やせば一人当たりの人件費が下がっていくが、施設を大きくしなければならず、他の場所に建て替えするとなれば建設費がかさむ。赤字の解消について考えると、ジレンマが生じる。

○委員長

職員確保の問題等については、次の議事において議論したい。

(3) 養護老人ホームはにしな寮の在り方に関する提言について

・事務局より資料3に基づき説明。

【質疑・答弁】

○委員長

事務局の資料では、いくつかの方向性がある中で、養護単独で建て替え、黒字運営していくのは困難と想定されるので、広域で運営する他施設と統合するのが善作ではないか、ということだったと思う。提言する内容をまとめていくために、示された資料に対し、修正点や変更点があれば御意見いただきたい。

○副委員長

措置だから必要ということ建て替えをしても、経営ができない、関係市町村の負担は楽にならないという前提で話が進むのは考えなければならない。赤字の状況を何とかしなければ民間は手を挙げない。建物を建てても赤字になるのであれば、その分の費用を措置に必要な費用に回すので経営の移管を受けてくださいということであれば、手が挙がるかもしれない。建築する限りは経営も含めて考えていかないと市町村も納得いかないのではないか。また、多機能な施設にするのはいいが、行政が行うべきことに即すのか、民間の事業を圧迫しないか懸念がある。

○委員

関係市町村のアンケートでは、措置費の増額について、措置者を多く抱えてる自治体は難色を示しており、措置者が少ない自治体はやむを得ないという意見と見受けられる。広域での運営は、財政調整基金の取り崩しがあったので成立してきたと受け止める。移管した際の財源確保を考えると、事業を大きくして運営し、金銭的な負担を軽減するよう考えたほうがいいのか。

○委員長

金銭的負担を最小限にするのは大事だが、それによって移管を受ける法人はいない。提言をまとめるためには、何を検討するか具体的な項目が必要である。

○委員

修繕費がゼロになると、赤字はどのくらいになるか。

○事務局

施設の修繕費、大規模工事、施設備品の更新等でおよそ千～千五百万程度必要にな

っている。

○委員

新しく建てたとしても、今の運営方法を継続すると修繕費分を抜いた金額が赤字になるため、単純な建て替えでは意味がない。金銭的な問題を解決するために、民間企業で行っている早期退職のような制度を導入し年齢構成を下げたり、入所者数を増やしたりすることを考えなければならない。

○委員

建て替えた後に、民間への委託を検討するかどうかは別の問題か。

○事務局

別の問題である。運営移管について検討するにしても、職員の入れ替えも長いスパンで考える必要があり、タイミングを考えなければならない。

○委員長

運営移管はしたいが、それを決めてからの建て替えは難しい状況。入所者が生活を継続できるようにしなければならないが、施設が痛んだときに強引に工事を進める事態を避けるよう手を打たなければならない。建て替えには時間がかかるので、早く着手する必要がある。

○委員

運営経費が抑えられないと、市町村としては気にせざるを得ない。松寿荘も老朽化しているとのことであり、この機会に特養も一緒に新築し、スケールメリットを出して移管先を募り、移管できるのが望ましい。そのような方針であれば移管を受けるか、といったアンケートは取ったか。

○事務局

方向性が出てないので取れない。民間は利便性のよい場所でないと受けてくれないと思われる。将来移管することまで考えると、建てる場所も重要である。

○委員

働き手を確保するためにも市部に新築し、もし手を挙げてくれる企業があれば移管をお願いするのが理想とは思う。指定管理では結局は支出が生じるので、民間の経営感覚で運営されるのが望ましい。一度に話が進まないとすれば、今回は市部に新築しておき、運営移管は別の機会に検討するという手段もあると思う。

○委員長

単独での建て替え、合築についてはどのような御意見か。

○委員

できれば合築で、難しいのであれば単独での建て替えが望ましい。

○事務局

資料では、建て替えるのであれば近隣地である坂城町、市部である千曲市若しくは長野市南部、松寿荘に統合の3つの方向性が示されている。このうち統合となると、

はにしな寮は廃止ということになるかと思うが、皆様はどのようにお考えか。

○委員

統合とは現在の場所で統合という意味か。

○事務局

松寿荘も現在の場所では物理的に無理であり、新しい土地を探さなければならない。入所者に現在の施設に居ていただき、同時に新しい場所に新築するしかない。

○委員

統合する場合、施設名は全く新しいものでもよいか。また、単独での建て替えからさらに費用がかかる。

○事務局

次回、建て替え例として挙げた北信及び木曾広域の土地等の資料を、参考としてお示しする。また、北信広域は廃校になった学校の土地を利用している。市町村から活用できる土地の情報をいただければありがたい。

○委員長

このまま何もしないという訳にはいかない。大規模改修より建て替えのほうが良いだろう、という認識で各委員相違ないので、どこに建て替えるか。現在の土地は目一杯に使われており、またイエローゾーンであるので別の場所に建てるしかない。資料にある坂城町のハザードマップを見ると、坂城町で土地を探すのは困難に思われる。廃校になった土地等大きな土地があれば話が変わってくるが、事務局で調査しているか。

○事務局

具体的に調べておらず、坂城町に確認していない。

○委員長

次回委員会資料は、提言書に近い形でまとめていただき、単独建て替え、松寿荘との統合、或いはどちらも推奨できないかを検討していきたい。

○委員

財産的な課題を考えると、企業努力の部分も残し、運営面でアイデアを出してもらうという点において、指定管理者の制度は有効ではないかと思う。検討材料を出してもらうことはできないか。

○委員

家族が関わりを拒否する、または年金が貰えない高齢者が増えており、措置は必要である。赤字を少なくすることは考えなければいけないが、今議論しているのは建て替えか現状維持か、単独なのか統合なのかを整理することである。統合した上での建て替えとなると、数十年後の松寿荘の在り方を想像しながら、はにしな寮の在り方を検討しなければならない。建て替える方法もPFI等色々な方法がある。移管や指定管理の話は、次の段階の話になるのではないかを思う。

○委員

経営まで見て提言するとなると、経営収支まで出すのか。減価償却費がないという話から始まると、単年度で黒字になれば良く、単年度黒字の経営収支をどうしたら作れるのか考えることになる。提言は何をするか、どこまで書くのかを整理してもらわないと、議論が深みにはまり、何も出てこなくなってしまう。

○委員長

事務局には、次回までに何を提言すればよいかという点も考慮して、提言書の素案を出していただきたい。

(4) その他

- ・第4回委員会の開催について決定する。

日時 第4回委員会 11月10日（金）午後2時から

会場 長野市資源再生センター2階 大会議室

4 閉会